



はじめに

サンタ新聞をご覧いただき、ありがとうございます。この新聞は、チャリティーサンタに共感し、参加や応援していただいた方に向けた2008年から発行している活動報告書です。皆様からいただいた力を形で社会に成果として残すことができたかを主にご報告します。この新聞を読んでいなければ、年度末にはボリュームアップしてお届けしています。

サンタ新聞は一年を通して季刊誌として発行していますが、今年度の支援はいつ何をしたか」「今年集めたチャリティーエンターテイメント金はいくらか」という收支報告・支援活動報告がメインとなります。各ページの内容は、左に記載してある通りです。まずは興味のあるところから是非ご覧になってみてくださいね。

-  もくじ
- 
- 
- 「世代と国境を越えて、想いやりをつなぐ
2013年度の収支報告」
- 「大人だけの秘密。
サンタクロースの声」
- 「未来の子ども達への手紙」
- 6
- 5
- 4

「世代と国境を超えて、想いやりをつなぐ」

2013年度に実施した支援活動

8月 福島

福島の子ども達を対象にした6泊7日の生き×活きキッズツアー@岡山を開催。(来年度も7月～8月頃開催予定)



次ページ

12月 ネパール

NGO「Bluepoppy」と連携し、オリジナルサンタ衣装を制作。就労支援と子ども達の学費支援にも繋がりました。



2月 ネパール

視察ツアーと一緒に、ネパールの公立学校へ知育おもちゃ、運動用具、室内用遊具、ノートと鉛筆などを贈呈。(来年度もスタディツアーや現地の学校との交流を予定)



3月 岩手・宮城

南三陸、気仙沼、陸前高田へ、スタッフを対象にしたスタディツアーアーを実施。



次ページ



新しい「歩」を



チャリティーサンタは、イブにサンタクロース訪問を依頼してくださった方や、活動に賛同頂いた方よりチャリティーサンタ金を頂き、そのチャリティーサンタ金で世界中の子ども達が1人でも笑顔になれるよう支援活動を行っています(上記図)。

ここでは、チャリティーサンタが今年度行つた支援活動について報告をします。

「世界中の子ども達を笑顔に」
チャリティーサンタは活動1年目からこのスローガンを掲げてきました。これまでフィリピン・バングラデシュ・東北と、子ども達が1人でも笑顔になれるよう支援活動を行っています(上記図)。

チャリティーサンタは活動1年目からこのスローガンを掲げてきました。これまでフィリピン・バングラデシュ・東北と、子ども達が1人でも笑顔になれるよう支援活動を行っています(上記図)。

「YAMA」という小さな縫製工場があります。2012年に開業したこの工場の立ち上げには1人の日本人女性が携わっていました。

25年以上もネパールの子ども達に学資支援を続けているNGO Bluepoppy(ブルーポ

ペール)の首都カトマンズに集まつたチャリティーサンタ金の一部を使用して子ども達の為の教育おもちゃやスポーツ用

品、ノートや筆記用具等をプレゼントしてきました。プレゼントを受け取った子ども達の様子は今後ウェブサイトでも掲載予定です。そ

た子ども達が大人になった時、そのバトンを次の世代へ渡していく側になつてもうしたい・・・。

私達の支援活動とは、世界中の子ども達を笑顔にしたいという、サンタクロースの願いそのものです。

一年、バングラデシュ(NGOエクマットラ)への支援に一旦区切りがついた事を契機に、海外支援のあり方を見つめ直し、自分たちでその国の課題と真剣に向き合ったために海外支援活動を一旦リセットさせて頂きました。新たな支援先として候補にあがつた国は過去に関わったフィリピン・バングラデシュを含め数カ国ありました。サンタ服を作るパートナーがいる国をもつと

だカースト制による差別感情が残つています。ちょうどその時、ネパールを旅していた横浜支部のまさやん(服部将也)と佐野さんが出会った事をきっかけに、「ネパールでサンタ服を作るプロジェクト」がスタートしました。また、ホームステイを実施した農村部のパルバット群では、未だカースト制による差別感情が残つております。一見幸せそうな村の風景の中にも根深い問題があります。しかし同時に、ネパールの人達の温かいおもてなしを受け、ネパールが本当に大切な存在になりました。この経験を元に、ネパールの子ども達に必要なサポートを考え、実践していく事がこれからステージとなります。

ムスティや政府機関・NGOなど

の訪問を通してあらゆる角度からネ

バールという国を体感し、ネパール

という国の素晴らしい点と課題点を

垣間みる事ができました。

国土を持つ一方、国際競争に追いついており、一見幸せそうな村の風景の中にも根深い問題があります。

では貧富の格差、それに伴う富裕層と貧困層との教育格差の問題がありました。また、ホームステイを実施



2011年3月11日に起きた東日本大震災から3年が経ちました。被災した東北に住む人達の現在の暮らしに触れ、今だからこそ、私たちにできる事を考え直すことから始めてみようと思いました。

3月下旬に開催する東北チャリティーツアーは、約50人のチャリティーサンタの仲間たちが自分たちでお金を出して参加するものです。私たちが掲げたツアーテーマは、「ツアーチャレンジ」。東北の現状を知り、ツアーチャレンジ後の具体的なアクションにつなげる。ツアーチャレンジでは、「自然と人とのチャレンジ」、東北の3つの地域「気仙沼」「南三陸」「陸前高田」に訪問します。被災した地域を訪問し、肌で感じることで、今、私たちに何ができるのか、真剣に考えていただきたいと思います。

■ツアーチャレンジ(予定)

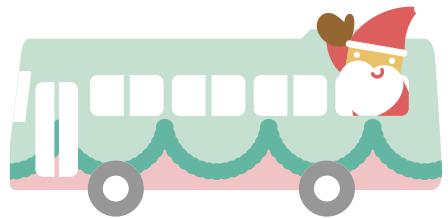
【宮城県気仙沼市】震災資料館や現地の復興ボランティアの訪問、語り部さんからの震災の体験談。
【宮城県本吉郡南三陸町】保育所・漁業の訪問。ボランティア活動。
【岩手県陸前高田市】ボランティア活動、仮設住宅への訪問、現地の方との交流。

スタッフを対象に 東北ツアーチャレンジを開催

子ども達の 生きる力を育む！

2013年8月7日～13日実施

in 岡山



2011年3月11日、東日本大震災は起きました。「忘れられない体験」と「心に残る思い出」をプレゼントすることで、未来につながる活動をしたい。

2012年、提案にあがつたのが「夏休みの特別な思い出を作り、子どもたちの生きる力を育むチャレンジ」と題して企画でした。「生きる力(自立)」とは、1人で生きるという意味ではなく、「誰かと助け合える力」。

すばらしいものになりました。

かけ、16名の福島県の子どもたちが参加してくれました。多くの人に支えられて、ツアーチャレンジが多くの地域で、忘れられがちな「どうしたら生きられるか」を仲間とともに考えること、自然体験や地域の優しい人々とのふれあいを通じて実感できる「助け合い」を経験することで、子ども達の心に「生きる力」が芽生えるようにお手伝いしたい。

今回のツアーチャレンジは、岡山で

林業が盛んな山を歩き、その森から採れた間伐材を使いみんなで作った木工工作。紙つき体验。

旅立つ日には、岡山を

川遊び。30年ぶりに復活した集落のお祭り、至近距離であがつた花火、スカイランタン……！

倉敷の町並み。最終日、岡山を

ラ「ももっち」もお見送りにきて

くれました。

そして、どの地域でもご飯を

ご馳走してくれたり、お風呂を

提供してくれたり、宿を安くし

てくれたり。本来ではあり得ないような、私達だけではできない

つかつた、たくさんの応援があつた、かけがえのない思い出のツアーチャレンジ。

ツアーチャレンジの詳細をご覧になりたい方は、ぜひウェブサイトをご覧下さい。

「また岡山にきてやああああ！！！」

を実施することができました。

どの地域も子ども達がきてくれてよかったですと喜んでくれました。特別な思い出ができたのは、地域の人たちも一緒にチャリティーサンタも

でした。なかでも「西粟倉村」と「上山」という岡山県でも田舎にあった場所。どちらの地域も、かつて過疎地域として人口減少をしていました場所でしたが、ここ数年、若い人たちを中心に、チャレンジが多くはじまつた地域でもあります。

今回、ウェブなどで広く呼びかけ、16名の福島県の子どもたちが参加してくれました。多くの人に支えられて、ツアーチャレンジが多くの地域で、忘れられがちな「どうしたら生きられるか」を仲間とともに考えること、自然体験や地域の優しい人々とのふれあいを通じて実感できる「助け合い」を経験することで、子ども達の心に「生きる力」が芽生えるようにお手伝いしたい。



親御さんの声

福島の子ども達のことを考え、サポートしてくださった皆さんに本当に感謝しております。このようなサポートがなければ、福島の子ども達は思いっきり遊ぶこともできず、子どもらしい経験ができないままの大人になってしまいます。

自分の子供の頃のように、自然に触れ、色々な経験をして欲しいのですが、今の福島の現状では厳しいというのが現実です。

今回のツアーチャレンジのようなサポートは、子どもが子どもらしい経験をするのにとても有効な方法だと思いますので、これからも是非サポートを続けて頂きたいと願っております。

ツアーチャレンジ

1日目

2・3日目

4・5日目

6日目

7日目

はじめまして！
ようこそ岡山へ

@西粟倉村
川遊びや和紙作り、
木工工作にチャレンジ！

@上山集落
お祭りに参加して
地域の人との交流♪

昔の街並み
倉敷へ！

ありがとう！
また会おうね！



2013年度収支報告



支出	支部	①支援活動(福島)	1,265,120
		②支援活動(ネパール)	100,000
		③各支部の活動費	965,981
本部	④オリジナル衣装	951,036	
支出合計		3,282,137	

①支援活動(福島)

「福島生き×活きキッズ～自然と人のチャレンジツアー」
催行のための費用です。

②支援活動(ネパール)

ネパールでの支援費用です。日本円で10万円分を現地訪問ツアーにおいて、現地の子ども達のために使用しました。学校への学資支援(鉛筆・ノート)、知育おもちゃ、室内遊具などに充てています。

③各支部の活動費

(内訳)

- ・クリスマス準備費用 : 163,243円
(サプライズプレゼント、サンクスカード、キャンディなど)
- ・当日にかかる諸経費 : 100,395円
(車両運搬費やボランティア保険、会場設営に係る諸経費など)
- ・会場費 : 250,234円(説明会や講習会の開催費用)
- ・報告費 : 31,860円(報告に係る諸経費)
- ・封書・手紙代 : 23,989円(御礼やお願いなど)
- ・広報費 : 60,156円(チラシの印刷、送付など)
- ・衣装に関わる費用 : 178,368円
(追加購入、衣装のバワーアップ、管理費)
- ・資料印刷費用 : 9,008円
- ・支部毎の活動費 : 148,728円(クリスマス以外の活動の必要経費)

④オリジナル衣装

クラウドファンディングで頂いた寄付金による、ネパールでの衣装製作費です。

チャリティー金の使途について

チャリティーサンタでは、ご家庭へ訪問する際に頂いたチャリティー金ができるだけ多く支援活動に使うような運営を心掛けています。どうしてもかかってしまう通常の活動運営費(ミーティングや参加者説明会などの場所代、イブ当日にかかる諸経費など)についてはボランティア参加者から参加費を頂いたり、運営費として使う為の寄付を頂くことで賄っています。また昨年度頂いたチャリティー金の余剰金は、今後の支援に使わせて頂きます。

弊団体では、明瞭で透明性のある収支報告を目指していきます。
ご不明な点などございましたら、[info@charity-santa.com]まで
お問い合わせください。

※上記収入・支出は3月上旬までのものになります。現在、チャリティーサンタはNPO法人申請中で、事業年度末が5月末を予定しています。また内閣府のNPOポータル上の事業報告書ならび、チャリティーサンタのHP上での報告をさせて頂きますので、最終確定はそちらをご参照ください。

今年度頂いたチャリティー金の一部は来年度の支援事業(東北支援・ネパールの子ども達の支援)にも充てる予定です。



収入	支部	①チャリティー金	2,204,370
		②前年度繰越金 ※	489,189
		③その他収入 ※	720,245
本部	④前年度繰越金	2,132,345	
	⑤HP経由の寄付	98,170	
	⑥クラウドファンディング	1,422,742	
収入合計		7,067,061	

※=各支部の活動支出に充てられます。

①チャリティー金

クリスマス活動で頂いた寄付金です。

活動地域	サンタ(人)	ご家庭(軒)	子ども(人)	チャリティー金(円)
札幌	60	31	61	72,000
秋田	97	50	179	111,000
仙台	67	20	220	43,000
群馬	54	34	72	64,000
東京	185	267	428	445,500
多摩	44	28	58	65,000
千葉	61	48	132	126,000
横浜	102	190	321	271,300
湘南	62	39	59	75,500
上越	17	10	20	24,258
甲府	86	68	125	155,000
都留	36	7	14	14,000
名古屋	128	140	223	228,200
大阪	60	42	145	70,000
岡山	107	63	115	123,000
香川	76	32	208	107,412
福岡	101	91	172	209,200
計	1,343	1,160	2,552	2,204,370

②前年度繰越金(支部)

各地域で集めた資金(各地域のスタッフ参加費・協賛金の繰越金)です。

③その他収入

(内訳)

- ・参加費 : 60,1670円
(チャリティーサンタの主催する活動の参加費です。主に会場費や当日に係る諸経費、ボランティア保険代などに充てられます)
- ・謝金 : 10,326円(地域の活動を行う際に頂いたお金です)
- ・協賛金・寄付金 : 103,165円
- ・その他 : 5,084円(銀行利子や雑収入など)

④前年度繰越金(本部)

チャリティーサンタ全体に係る前年度からの繰越金です。

⑤HP経由の寄付

活動にご賛同頂いた皆さまからの寄付金です。

⑥クラウドファンディング

ネパールでの衣装製作プロジェクトで、クラウドファンディングサービス「makuake」で頂いた寄付金です。本寄付金については、全額を衣装製作費用や寄付者への御礼・報告などの管理費に充てます。

未来の子どもたちへの手紙



突然のことでびっくりしたかな？あのクリスマスの日のできごとです。
これからする告白は、あの日のことを話す時がきました。

大人の仲間になったキミに、あの日のことを覚えてますか？さあ、はじめましょう！
ここでの準備はいいですか？

2013年12月24日。キミはサンタに会ったことを覚えてますか？
そう、ワタシはあの時の「サンタクロース」。

あの日、キミの家族がキミを喜ばせようとワタシにプレゼントをたくして
それを持つてキミに会いに行つたのです。それはあれは1軒いくらかのチャリティーをもらうことで、キミだけじゃなく、東北やネパールの子どもたちも笑顔にしよう、というチャリティーの企画だったのです。

それを「ステキだね」とついてくれたキミの家族がワタシたちを呼んでく

キミの家族が、キミとだれかのしあわせを願つてくれて、
クリスマスにはたくさんチャリティーがあつまりました。

そして、そのチャリティーで東日本大震災を経験した子どもたちとネパールの子どもたちに「未来への希望」と「笑顔」をプレゼントすることができます。

キミがこの手紙を読んでいる頃には、あの子どもたちも、未来をつくる若者として成長しているでしょう。

サンタがキミのおうちに来たあの日。東北やネパールの子どもたちのサンタに
なつてました。キミ自身が、東北やネパールの子どもたちのサンタに
なつてました。世界中の子どもたちへ「笑顔」というプレゼントを届けることができました。本当に、本当にありがとうございました。

今キミにとってサンタクロースはどんな存在ですか。
ワタシはキミのサンタになって、
キミとキミの家族や東北やネパールの子どもたちと出会えて気づきました。
「だれかを笑顔にしたいって気持ち」が「サンタクロース」なのかも知れないとつて。

大きくなつたキミへ 2013年のサンタクロースより

「サンタクロースは現実には存在しないんだ・・・」
子供たちがいつかそんなんときこの手紙によって、

「サンタはないのではなく、『誰かを笑顔にしたいって気持ちがサンタ』なんだよ、サンタはいるんだよ」ということを、子どもたちに伝えたい。

「誰かのために何かをすることはステキなことだよ」というメッセージが子どもたちに伝わり、

誰かを笑顔にするために、想いやりを持って行動に移していく。

そんな想いを込めて手紙を書きます。



お子さまをいつも近くで見守る親御さんから、ときを見で
同封した手紙を渡してあげてください。
自分を喜ばせるために依頼してくれたという親御さんの愛情を、
将来子どもたちが感じるきっかけにもなれば良いなと思っています。

サンタクロースの声

2013年12月24日。人生で初めて「サンタとなつてお子様にプレゼントと幸せを届ける」という重大な任務を遂行した日でした。訪問前は緊張に押し負かされそうでした。慎重に扉を開けると、そこには無邪気にはしゃいで大喜びするお子様の姿がありました。その瞬間こそ人生の中で最も幸せな瞬間でした。他のボランティアでは決して味わうことのできない喜び。本当に「最幸」でした。本来はサンタがお子様に幸せを届けるものです。が逆に私がお子様に計り知れない喜びをいただいたように感じました。保護者の方々も大喜びされており、その時にサンタがもたらす喜びの凄さを感じました。

訪問から帰つてくると、他の訪問サンタやサポートサンタが涙を流しながら喜んでいました。今年初めて参加したサンタも、経験豊富なサンタも、みんなで喜びを分かち合つて

人生初の「最幸」

いました。喜びに浸りながら休憩していた私に同じチームのサポートサンタがある一通のメールを見せてくれました。そこには、サンタになつた私

を見て大喜びしているお子様の写真がありました。保護者の方が私たちに感謝の想いを伝えるメールを送つてくださったのです。嬉しさが増幅しました。こんなにも他人に喜んでもらえたことは今までにありませんでした。今でもその写真是

2013年度もチャリティーサンタにご参加・応援いただき、本当にありがとうございました。

今年度は「このみの年」と題して、数々のチャレンジをしてきました。サンタ衣装の自主開発・生産というビッグチャレンジを始め、福島の子ども向けに生きる力を育む一週間のツアー（8月in岡山）、よみうりランドへのサンタ派遣、その他にも大小様々なプロジェクトがありました。

さらに、とても嬉しい出来事として、公益財団法人日本ユースリーダー協会が主催する第5回若者力大賞において、「ユースリーダー支援賞（団体部門）」を受賞しました！この賞の選考基準は、「広く社会での教育活動であること」。今回は「サンタになる大人（若者）」を教育している点が評価されました。突然の受賞の連絡をもらい、とても驚いたのですが、その理由を聞き、活動の本質を見ていていた人がいたことが本当に嬉しかったです。

これからチャリティーサンタは、クリスマス「だけ」の活動から、本当の意味で一年を通して活動していく。2014年はそのスタートの1年になります。

最近、中心メンバーと話していて、私

達が本当にやりたいのは「Give m e 社会から For you 社会へのづくり」ではないか、という話にまとまりました。「自分が貰うしあわせよりも、誰かへ渡すしあわせ」それを当たり前価値観にしていきたい。「For you」渡すしあわせ」の象徴こそサンタクロースなんじやないか？そして、For you が当たり前の人たちを見た子どもが「あんな大人になりたい」

（湘南支部代表
品田菜見子（25））

湘南支部では、クリスマス以外の年間の活動にも力を入れています！



イブの夜、サンタは続々と子ども達のもとへと出発していきます。前夜まで受け入れや訪問の最終確認に奔走していたメンバーも、当日にはサンタクロースとして訪問しています。戻ってきたサンタたちが「こんなことがあった！」と最高の笑顔で話してくれる様子を見ている時が、今日まで準備を頑張つて本当に良かったなど思える瞬間です。

（甲府支部
山田涼介（19））



大半がサンタ経験者の方で構成されている運営ですが、今年は個々のライフスタイルの違いから、繁忙期に集うことができずスケジュール調整に苦労しました。それでも、イブにサンタクロースになつた感動体験を大切に心に持ち続けているスタッフたちだからこそ、自分だけではなく活動に関わる全ての人々に喜んでもらいたいという想いで、半年間の準備、スタッフの募集や声かけ、ご依頼への対応など「自分に出来ること」を頑張つてくれました。

代表 清輔夏輝より

FacebookやHPで活動最新情報を随時更新中！

チャリティーサンタ



第5回 若者力大賞 授賞式



▲第5回若者力大賞受賞時

と心から思う。そんな社会になれば、子どもだけじゃなく、大人にとっても「笑顔でいられる未来」は待っている。私達はそう信じています。だから、サンタクロースのような大人がもっと増えるよう、これからより一層、本質的な活動を続けていきます。

